



学力向上に係る学習会
勝見健史先生の講義より

関係づける思考を子どもたちに

論理的思考を支える「思考のすべ」と促す名辞

昨年度の研修会で、右のような「関係づける思考」について示唆をいただきました。

その後、学校では「関係づける思考」を授業の中に落とし込んで実践し、振り返り、実践事例としてまとめていただきました。



今年度、新たに、次のような示唆をいただきました。

自らの実践を振り返る経験の蓄積こそが、指導力を高める近道かも…。

思考	促す名辞
比較	どちらが～でしょう
類別	～から見ると〇〇と□□は同じ仲間です
分析	～はA、B、Cから成り立っています
理由付け	～と書かれているから、==と思います
推論	〇と□だとすると、～ではないでしょうか
解釈	これは、～ということです
具体化	これは例えば～です
一般化	これらの例から==といえます
評価	〇は□の方がよい。
批判	理由は==だからです

『ビフォー・アフターで取り組む国語科授業デザイン』
勝見健史著 文溪堂 2017より

1 「関係づける思考」自体が目的になっていませんか？

- 「関係づける思考」は教科の目標を達成するための手段。
⇒ 関係づける思考の“有無”ではなく、その思考によって教科の深い学びに繋がったかを事後研で吟味しよう。
- 「関係づける思考」は、個別に取り出して指導するのではなく、主体的な課題解決の過程で自覚的に活用させる。
⇒ 課題解決型の主体的な単元づくりを年間何本か重点化してデザインし、そこで関係づける思考を活用させよう。
- 「関係づける思考」は全く新しいものではない。これまでの優れた実践の思考場面では指導されてきたもの。
⇒ 「しっかり・ちゃんと考えなさい」から脱却しよう。

2 考えのズレを見つけ、ズレを活用していますか？

「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」で取り組んでいる3D「どこから(根拠)」「どうして(理由)」「だから(主張・立場)」のズレを見つけ、ズレをいかす。

「主張は同じだが、根拠が異なる」
「根拠は同じだが、理由が異なる」
※ズレを通して子どもがつながる
ズレを追究することでつながりを深める

ズレ

3 読書意欲を高めるアイデア

- 読解と読書の乖離… “理解させようとする授業から “感じたことを生かした授業” へ
- 〈わたし〉と本との多彩な付き合い方を獲得する
…ジャンル・シリーズ・作者・時代・主人公で出会う
- 子どもの読書生活と往還させる
図書館から始まる授業 図書館で行う授業
子どもの本棚から始まる授業
重要な他者(家族・先生・親友)の愛読書を知る 等